

東京学芸大 石毛フミ子
 実践女大家政 ○平岡和香子
 聖徳学園短大 藤井 香代

1. ワンピースドレスなどに用いるタイトスリーブの着心地(機能性)は、袖山の高さ、適当なゆるみ、肘ダーツの位置・分量などが大きく関係すると思われる。従来用いられているタイトスリーブの製図は、袖山を袖ぐり寸法から、肘線の位置を長袖丈寸法から割り出し、袖幅のゆるみは袖口寸法によって決められる場合が多い。しかし、これらによって製図された袖が、機能的、外観的に満足が得られるものとは思われない。

そこで、今回は、袖のゆるみおよび肘ダーツの位置・分量について検討した。

2. 女子大生 50 名について、腕を垂下した場合、 130° 、 90° 、 45° に曲げた場合、および指先を肩先につけて腕を二つ折りにした場合の袖丈、肘の位置、腕囲の変化を計測した。その計測結果をもとに、一般に広く用いられている 2 種の製図法によって、ワンピースドレスの上部をシーチングにて作成し、着用実験を行なって、外観・機能の両面から考察した。

3. (1)肘ダーツの位置は、 90° に曲げた場合の肘丈の位置がもっとも適当であった。(2)肘ダーツ量と肘線付近のゆるみとは相関関係にある。その分量の決め方は、腕を 90° に曲げた場合の長袖丈と、垂下した場合の長袖丈との差が適量であった。(3)袖口のゆるみは、前腕囲と手掌囲との差が適当と思われた。